

令和元年度第9回安城市地域ケア推進会議

日時 令和2年2月20日（木）
午後1時30分～午後3時
場所 社会福祉会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

本日は今までと違うワークショップ形式なので活発に意見を出していただきたい。

デンパーク駅伝が2月9日に行なわれた。推進会議のメンバーを中心に、選手70名で14チーム参加した。応援を合わせると100名近く集まった。今までは多職種でタスキをつなぐ、参加することに意義があるという趣旨でやっていたが今年は選抜チームを作り3位という好成績を収めた。来年は歯科医師会部会と薬剤師会部会も参加していただけると聞いている。皆さんの応援もよろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進のための研修会等実施報告 (資料1)

・多職種ワークショップ (病院部会)
病院部会)

研修の参加者、所属、反応、意見は資料1-1の通り

アンケート結果の反応で「わかりやすかった」が多かったのと、自由記述の内容から有意義な研修だったと思う。病院のスタッフにも良い機会となった。

一番の目標は職種や立場の違いにより価値観や視点の違いを自覚してもらうこと。アンケート結果を見ると概ね良かったと思う。連携の第一歩は相手と自分の違いを自覚することなのでそういう点では良い機会になったと思う。

質問・意見

なし

・自立支援の核心に多職種で迫る Part2 (リハビリネット部会)

リハビリネット部会)

研修の参加者、所属、反応、意見は資料1-2の通り

目標は連携の取り方を体感してもらうこと。職種が違うと言語も違うので絵で視覚化して共有した。アンケート結果から満足をしていただけた方が多かったと思う。連携の課題が見えてきたので今後は連携をとるためにはどうすれば良いのか深めていきたい。

生活機能連携向上加算について。現状算定できていないので市にも協力いただきながら取るためにはどうすれば良いか深めていきたい。

意見・質問

なし

(2) 次年度の研修企画について (資料2)

事務局)

- ・在宅医療介護連携推進のための研修会目的 資料2-1

今年度は皆様のご協力のもと、15回の在宅医療・介護連携推進のための研修会を開催することができた。延べ1,600人の方々に在宅医療・介護だけでなく、地域連携の大切さや連携の方法についても知って頂くことが出来た。

本研修会は平成26年に始まり、今年で6年目を迎えた。在宅医療・介護連携推進のための研修会は各専門職部会メンバーのスキルアップと同時に、他職種との連携や協働の推進を目的としている。お互い顔が見える関係は既に出来つつあると思うので、今後は他部会で合同開催し、多職種連携の研修会を中心に推進できればと考えている。一方で、出席者からは、「どれも魅力的な研修会なので全部出たいが、回数が多くて困る。」「一部会につき研修会は1回の開催としないと不公平では無いか？」という声も事務局に届いている。そこで、これから一年をかけて、企画する側にも参加する側にも負担にならず、より効果的な研修会の開催方法を考えていきたいと思っている。加えて、在宅医療・介護連携推進のための研修会についても、部会メンバーが主体的に開催できる様な研修会にしていきたいと考える。

今回、マニュアルも改正した。このマニュアルを実践することで、自立した研修会の開催を目指したいと思うので、ご協力をお願いします。ご不明な点が有りましたらいつでもお声掛けください。今年度から来年度にかけての改正点は網掛けで示してある。

- ・開催回数、費用、テーマ、講師、会場、事前準備、当日の流れ、研修会後の処理は資料2-1-1の通り。
- ・来年度から部会の担当者が変更になる場合は引継ぎをお願いしたい。
- ・来年度の研修(企画案) 資料2-2

各部会で共同実施できるものや関連性を持たせた方が良いものがある可能性もあるので意見をいただきたい。開催日程は3月の推進会議で決定する。

意見・質問

会長)

出ていない部会は検討中なのか、実施はなしということか。

事務局)

期限までに提出があったものを掲載した。おそらく検討中の部会もある。

(3) 看取りに関する取組みについて (資料3)

事務局)

看取りの必要性、看取り体制の推進における課題、安城市の看取り体制の取り組み方法について、資料3-1のとおり

質問

病院部会)

ここでいう看取りとは、最期の場面のことか、それともそれまでのプロセスのことか。

事務局)

ここでいう看取りとは、プロセスを考えた一連の看取り期を考えている。

病院部会)

在宅死に限ったわけではないのか。

事務局)

そうである。

安城市の看取りの目指す姿を決めるためグループワークを行います。

〈グループワークの説明〉

安城市の看取り体制を皆さんと議論し目指す姿を決めたい。この地域ケア推進会議で決定した内容が全ての専門職が目指す姿となる。今後の安城市の看取り体制を進めていく中でとても大切な目標となる。目指す姿はイメージしにくいと思うが、こうなると良いなというイメージで良い。

〈グループワークの内容〉

- ・全体で30分。
- ・各グループのファシリテーターは司会をお願いします。
- ・個人ワーク・・・誰が、どこで、どのような最期を迎えるかを付箋に記入
- ・グループ内で発表・・・付箋の内容をグループ内で発表
- ・グループ内で検討・・・意見をグループ内でひとつにまとめ用紙に記入
- ・発言者、発表者はファシリテーターが指名する。

質問

病院部会)

「誰が」とは最期を迎える人が誰かということか。本人しかいない。

事務局)

「誰が」は本人に限定する。

各グループワークの内容

1 グループ

目指す姿：「本人が望む場所で今を大切に生きる」

理由 看取りは、死に方をサポートするわけではなく、最期までの過程を大切にどう生きるかが大切である。

2 グループ

目指す姿：「本人家族が希望する場所で誰かに見守られて自分らしく苦しくない最期を迎える」

理由 自宅なのか病院なのか、本人家族が話し合うことで本人の価値観を尊重した安らかな最期を迎えられると良い。

3 グループ

目指す姿：「本人が望む場所で本人の意思を尊重した最期を迎える」

理由 本人の気持ちはその時々で変化するため、その気持ちにより添ってもらい、住み慣れた

場所で最期を迎えられる。

4 グループ

目指す姿：「本人が望む場所で本人の思いに寄り添った形」

理由 自宅や施設、病院はその時次第だが、こんなはずじゃなかったと後悔しない最期を迎える。

5 グループ

目指す姿：「本人が本人の望む場所で本人の望む最期を迎える」

理由 馴染みの地域でどこでも選択でき、医療と介護に守られている安心感の中で穏やかな最期を迎える。

事務局)

深い話をしていただき、これが医療介護福祉連携推進であり、地域包括ケアとはこういうことだと思った。本人の思いに寄り添った前向きな意見が多かったと思う。ご協力ありがとうございました。出していただいた案を事務局でまとめて決定する。

感想

病院部会)

看取りという言葉には最期とか亡くなるという意味があり看取りを支えるとなると最期をどうするかという話し合いになりがち。しかし、最期がどうなるかは不確実なことで、不確実なことを今からどうするかと言っても分からない。それならば、本人が最終段階に向かって今をどう生きていくかを支えましようと言った方が分かりやすいと思う。その結果としてどういう形であれどこかで亡くなる。本人が今を大切に一日一日をどう生きるかを支えることが看取りを支援すること。看取りの主語は本人で、本人の生き方を家族が決めるわけにはいかない。本人が決めるためには予め考えておかなければいけないプロセスが発生する（ACP）。それをどのタイミングで誰がするのかという問題が出てくる。それは必ずしも医療者でなくても良い。例えばヘルパーが入るタイミングで、「これから私が生活をサポートしていくがこの先どういう生活をしたいか」と聞いても良い。それには医学的知識もいらないしそれほど侵襲的な話にならず誰にでもできること。皆さんが何かのタイミングで聞いてみようと意識すれば誰でもできる。それを皆が共有すれば完結する。価値観を尊重した生き方を聞き、死に方を聞くのではなく、それを支援する。そのためには事前にそれが分かるようにしておくと思う。

事務局)

看取り期ではこれからどのように生きていかを考えることを心に留めておきたい。本日はありがとうございました。

今後の予定は4月の推進会議で事例分析を行う。本日皆様から出た意見をまとめた安城市の看取り体制の目指す姿とともに在宅と施設に分けて事例を送付する。グループ分けの都合上、在宅の事業所でも施設のグループに入ってください。ご協力をお願いします。部会での

検討内容は、達成できていること、課題、達成に必要な要素。不明な点をご相談ください。
3月30日までに提出をお願いします。部会の開催日の関係で提出が難しい場合は事務局まで相談ください。

連絡事項

- ・令和2年度地域ケア推進会議開催予定
令和2年度も今年度と同様8月と1月は休会にする。報告事項がある場合はサルビー見守りネットで報告するなど工夫する。
- ・次年度の代表選出について（資料4）
3月20日までに提出をお願いします。

次回 令和2年3月19日（木）午後1時30分～3時 社会福祉会館 会議室